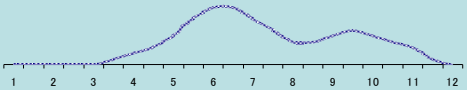
野菜を加害するネギアザミウマの防除対策

【背景・目的・成果】ネギアザミウマは古くからの害虫ですが、最近になって難防除化し、今まで発生の少なかったアブラナ科野菜類などに被害が増加しています。これらの被害は新たに侵入してきた系統のネギアザミウマによるものが多く、これら新系統に対する防除対策を明らかにしました。

越冬後、春から初夏にかけて増加後、盛夏時には減少するが、秋に再び増える。
ネギ類やウリ科、ナス科など多くの作物を加害する。



淡路では5～6年前より春期のキャベツに大きな被害を与えている。
従来の薬剤がやや効果が低下している傾向にある。阪神地域のネギ等でも同様の傾向にあり、いずれの地域も新系統が確認されている。

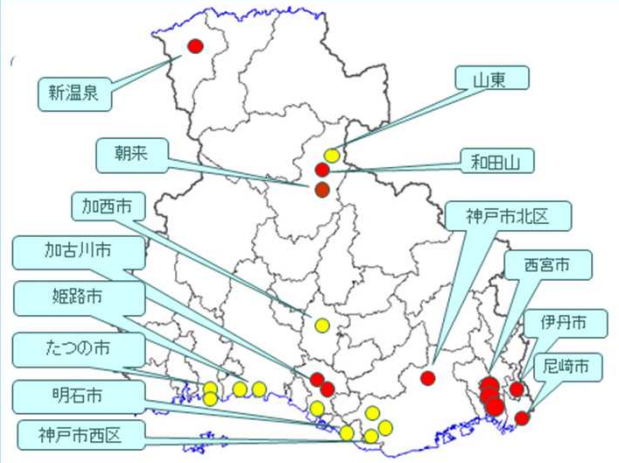
外葉部の被害

多いときは一枚の葉に1000～3000個体が寄生。葉はかすり状に白変し、商品価値は低下する

結球内部の被害

加害した痕がカルス状に盛り上がり、著しく品質を損ねる

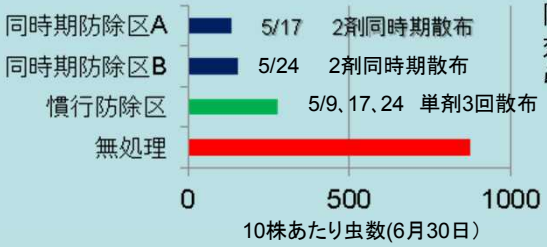
兵庫県での新系統発生状況　● は新系統
PCR法による解析　(2010～2013)



新系統発生地域では各種薬剤の感受性検定を行い、防除対策を確立

アセタミプリド水溶剤とスピネトラム水和剤を用いた体系防除試験

キャベツでの防除体系試験結果



同時期防除で高い効果が得られる

新たな被害が生じた産地に対しても既存の調査データを活用し、対応が可能

朝来市
岩津ネギの
調査

【技術の活用】ネギアザミウマに対する既存の登録薬剤の一部は、新系統発生地域においては効果が劣る場合があります。従来の薬剤が効かないと感じた場合は、農業技術センター病害虫部までご連絡ください。新系統の発生状況には今後も十分な注意が必要です。

兵庫県
Hyogo Prefecture

兵庫県立農林水産技術総合センター
農業技術センター